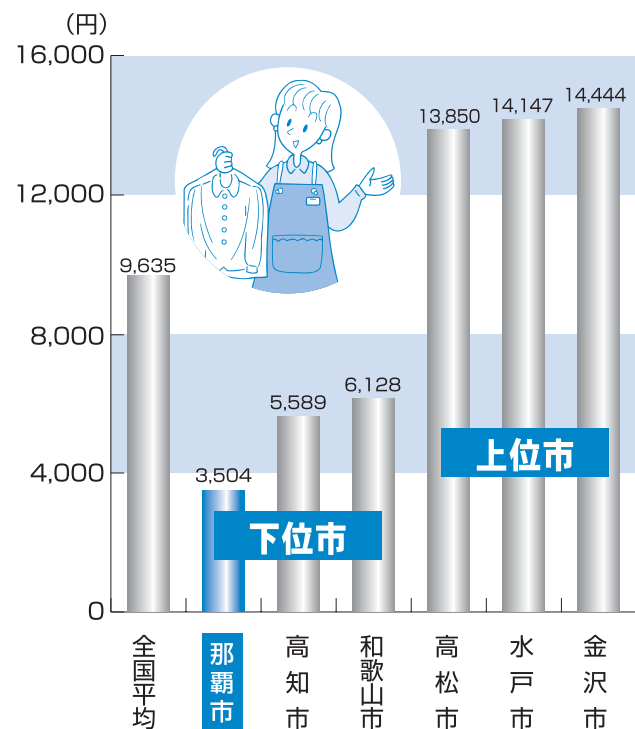


### 【クリーニング代】

(年間支出額)



# 3,504円

家事を「炊事洗濯」と呼称することからもわかるように、洗濯は基本的な家事のひとつである。かつて沖縄でも川や池または井戸水などで、たらい・洗濯板を使い洗濯をする風景がみられた。

総務省統計局「家計調査2007年」によると、沖縄県（那覇市）の年間クリーニング代は世帯当たり3,504円で最下位である。1位の石川県（金沢市）は14,444円で約4分の1の額である。ちなみに全国平均は9,635円。

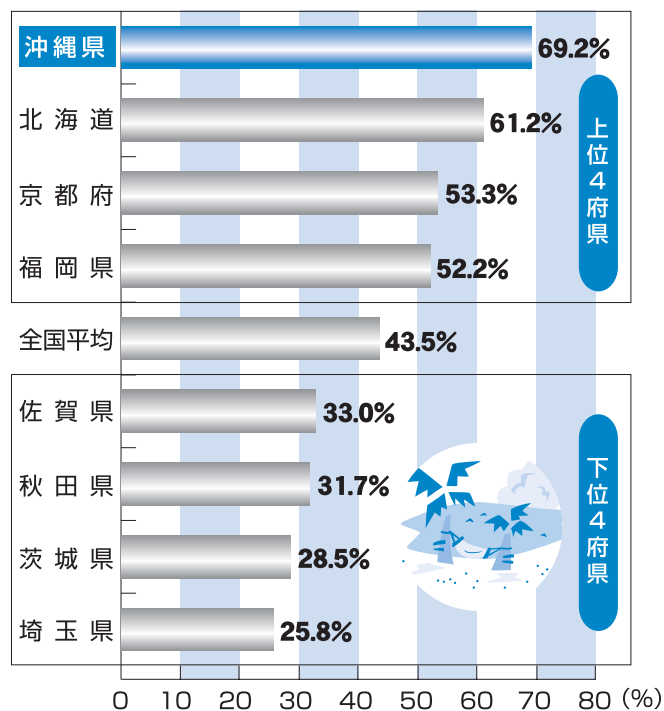
北国や大都市圏はよく利用し、南に行くほど金額が低くなる傾向があるようだ。年中温暖な沖縄では、たらい・洗濯板に変わり今では家庭用洗濯機が活躍しているようだ。

季節の変わり目、クリーニング仕立ての服をきて、心もリフレッシュしてお出かけしてはいいかだろうか。

(海邦総研会員事業部/照屋昇憲)

### 【“ふるさと”への愛着度】

(2010年)



# 69.2%

旅行や仕事などで県外に出かけた際、「やっぱり沖縄が一番」とつぶやいた経験のある県民は意外と多いのではないだろうか。

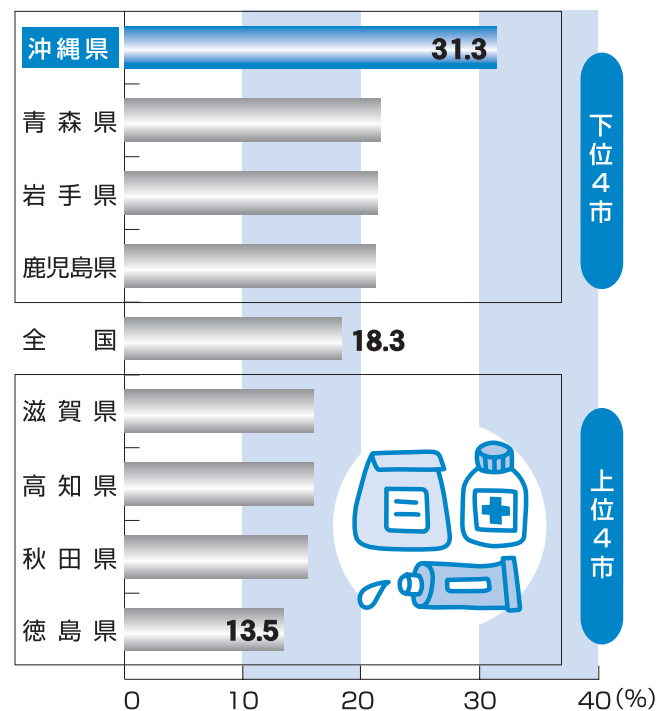
株式会社ブランド総合研究所がまとめた「2010年都道府県出身者による郷土愛ランキング」によると、沖縄県出身者の“ふるさと”に対する愛着度は69.2%。全都道府県別の中で堂々の第1位だ。愛着を感じる要因として、「自然が豊かなこと」のほかに、「人のよさや優しさ、おもてなしがよい」との回答が64.9%と他府県より突出して高い点が特徴としてあげられる。

沖縄県民・出身者は、ふるさとの自然に加え、人とのつながりをより重視しているのだろう。高校野球の応援に見られるような地域の一体感が、今後の地域経済活性化の強力なパワーとなることを信じていたい。

(海邦総研経営企画部/島田尚徳)

### 【ジェネリック医薬品の使用割合】

(2009年度)



# 31.3%

最近、病院や調剤薬局で「ジェネリックにしますか。」と聞かれた方も多いのでは？

ジェネリック医薬品（後発医薬品）とは、“新薬”の特許が切れた後につくられ、効き目や安全性も承認された薬である。処方箋の「後発医薬品への変更不可」という欄に医師の署名等がなければ、患者が薬を選択することができるようだ。

全国健康保険協会「医薬品使用状況」によると、2009年度に医療機関にかかった際に処方された薬のうちジェネリック医薬品を使った割合（数量ベース）は、県内では31.3%と全国トップである。最下位の徳島と比べると2倍強の開きがある。

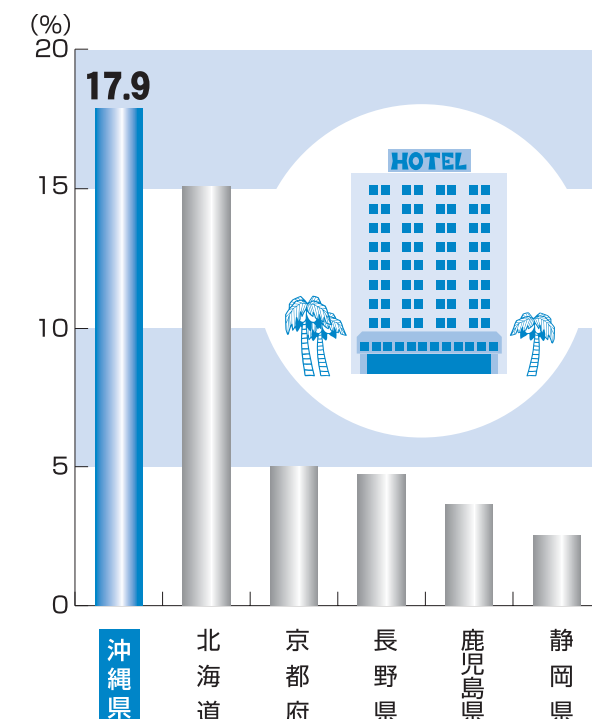
ジェネリック医薬品は価格が安く、自己負担も軽減されるため、県内でも多く使われているのではないかと。

これから寒くなると、風邪や体調を崩しやすい季節。できれば、『お薬』を使わずに元気でいたいものだ。

(海邦総研人材開発部/安田ひろみ)

### 【ロングステイを希望する都道府県】

(2010年度)



# 17.9%

移住先として高い人気がある沖縄だが、長く旅行をしたい観光地としても高い人気があるようだ。

財団法人ロングステイ財団「ロングステイ調査統計2010」によると、2010年度国内でロングステイを希望する都道府県のうち沖縄を選んだ人の割合は17.9%で、堂々の全国一位。調査を始めた2008年度から3年続けて一位を維持している。

滞在先で希望する行動ではウォーキングが上位となり、必要な情報としては医療機関の情報が一位となるなど、ロングステイ先での健康・医療への関心が高いようだ。

最近では医療機関と旅行会社などが連携した医療ツーリズムが、国内だけでなく海外にも発信されている。

健康・長寿のイメージという強みを活かした、新しい観光のタイプとして今後の成長が期待される分野だ。

(海邦総研経営企画部/国吉真吾)